

弘教寺



第二号



発行所

〒370-0131
伊勢崎市境米岡二七九-二
浄土真宗本願寺派弘教寺内
寺報編集部責任者 玉田 忠
電話0二七0(七四)0五七三

報恩講法要に寄せて

弘教寺住職 中山 英昭

浄土真宗寺院の各寺が報恩講法要をお勤めする時節がやつてまいりました。報恩講とは宗祖親鸞聖人のご威徳を偲ぶ、浄土真宗の寺院、門信徒にとつて、最も大切な法要であります。昔は交通の不便さもあつて、遠方の門信徒の皆さんは泊まりがけで、法要に参加し仏法聴聞をこの上ない人生の喜びとしておりました。群馬組内の各寺院でも、三日から七日法要を勤めていたようです。

しかし、戦後の復興、高度経済成長、経済発展の裏腹として、法要に参拝する門信徒の数は、減少の一途をたどりました。

戦後の時期、報恩講法要を三日間勤めていた弘教寺におきましても、ご多分にもれず、参拝者の減少とともに二年前まで、一日だけの一座法要となつておりました。しかしながら、婦人会の活動に加え、数年前からの壮年会の活動の充実によつて、昨年より、前日を壮年会、婦人会の合同報恩講という形をとり二日間の二座法要を勤めることに致しました。

今後この形を堅持していきたいと思つております。そして一人でも多くの方に聖人の示されたお念仏の道を歩んでいただく機会として参りたいと思つております。

ご本山の機関紙「宗報」の十月号に原田宗司さんと言う方が「五十年後の子供たちにお念仏の声をとどけるために」というテーマで、「長いあいだ、お念仏は『家』の伝統のうえにつたえられてきました。

『家の宗教』だったから救われたという人もありました。しかし、現在、その『家』の伝統はほとんど崩れてしまいました。

『家』の中の如来さまの前で、深々と頭を下げる父をみて育つた人も、口ぐせのようにとなえる母の念仏を聞いて育つた人も『家』を捨て、自分が父や母となり、そして老いはじめています。その子どもたちには、そんな父や母の『こころの風景』はみえていません。父や母は、いまではホンの細い糸で、如来さまやお寺とつながっているだけ



御影堂



安城御影

です、いまこの細い糸をたぐり、より合わせもつと太い糸や綱にしておかねば、間違ひなく糸は切れてしまいます。

釈尊は『荒れた砂地より、美田に種子をおろすべし』と示唆されたといひます。その美田とは、だれかが如来さまに頭を下げる情景を見、どこかでお念仏の声をきいて育つたところに残されているのではないでしようか」という一文を掲げておられました。全く同感であります。今現在お念仏のみ教えは切れかけた糸の如き状況であるとおもひます。

十月末に北関東のご旧蹟の寺々を参拝いたしました。八百年前に、交通の手段もない、灯りも十分でない中を、ひたすらお念仏のみ教えを伝えるために、ご苦勞下さつた親鸞聖人の、み跡を偲ばせていただきましたが、この切れかけた糸を少しでも太くする努力をしていくことが、今の私ども大切な責務ではないかと感じております。報恩講法要に一人でも多くの方々を参集をいただき、八百年間永々と伝えられてきた、お念仏の心の糸を門信徒の皆様のご努力によつて、少しでも太くして次の世代に伝えていただくことを願つて止みません。

「ミテゴザル」 田中鐵郎

私の両親は、福井県の出身で、私が三歳の時に伊勢崎市にきました。大変信仰が厚く、朝晩仏壇に、家族全員でお参りし、お勤めが終わってから、ご飯を食べるのが習慣でした。阿弥陀様の前に、父が書いた「ミテゴザル」の張り紙があり、私が小学校に入る前に覚えて最初の五文字でした。

昭和十二年は日支事変、昭和十六年は第二次世界大戦、と戦争中の子供でした。良く遊べ、良く遊べ、で大きくなったら男の子は兵隊さんに、女の子は従軍看護婦さんだという戦争ごっこなどして、外であばれる遊びをしました。又、夏休みの宿題に、軍馬用の干草作りがあり、皆で競争しながら草刈りをしました。

工業学校一年生の時、学徒動員で中島飛行機工場で、午前中は授業を受け、午後は現場作業でした。戦争が激しくなると、朝から一日中現場作業でした。学生が勉強出来ないのなら、と少年飛行兵に志願し合格しました。

九州熊本飛行学校に入隊しましたが、二年の教育期間を、一年で仕上げ上げる猛訓練で、朝に晩に「ナグラレ」軍人精神、特攻隊魂を叩き込まれました。

段々出陣が近づき、上官から故郷の両親の写真を送って貰うように、命令が出ました。私も父に手紙を書きましたが、私に写真は



こなくて、名刺ほどの小さい三つ折りの紙の真ん中に「阿弥陀仏如来」左に「南無不可思議光如来」、右に「帰命盡十方無碍光如来」と書かれたご本尊が送られてきました。お前の親様だぞ、生きるも死ぬも常

にご本尊と一緒に「ミテゴザル」「キイテゴザル」「シツテゴザル」と手紙に書き添えられてきました。

昭和二十年五月早朝、朝食前に空襲警報と同時に、米空軍のロッキード、グラマンの大空襲で、基地が全滅の被害をうけたとき、たった五m離れた防空壕で、戦友は直撃弾で即死、全部で三十六名が戦死しました。たった五mの差で九死に一生を得てから戦後六十年十七歳の少年飛行士が、七十七歳まで生かさせて貰っている命の尊さ、大切さ、有難さを感謝し、手を合わせていただく毎日です。

平成十六年八月、築地別院教区報一八一号に、群馬組弘教寺の「紙芝居を手作り、坊守が下絵、門徒が色づけ」の記事が紹介されました。第一作の「お釈迦さま(前編)」に始まり、現在は九作まで完成しました。



「戦争の時代」を迫体験しているようでした。チャレンジゲーム大会は外で楽しいお祭りが広場。五十八名の子供達と保護者などが六つのゲームで賑やかに盛り上がりました。スタッフの方々に感謝!

坊守が鉛筆で下書きし、私が塗り絵、裏打ち、仕上げ、と分担してきましたが、十作目は住職の要請もあり、私の体験記を「ミテゴザル」と題してまとめ、平成十七年八月の弘教寺「子供の集い」で大勢の子供とその父母にきいていただきました。私は現在、何不自由もなく楽しく生かせていただいている喜びを感謝しつつ、「ミテゴザル」「キイテゴザル」「シツテゴザル」のお念仏を唱える生活をしています。合掌

※「ミテゴザル」「キイテゴザル」「シツテゴザル」は桐溪順忍和尚のお言葉のようです。

ますます暑い 子どもの集い 夏十一回 住職のお盆のお話の後、田中さんの紙芝居「ミテゴザル」。ゆつくりとした語りによく真剣な表情で聞き入る子供達は、六十年前の

仏教壮年会・婦人会コーナー

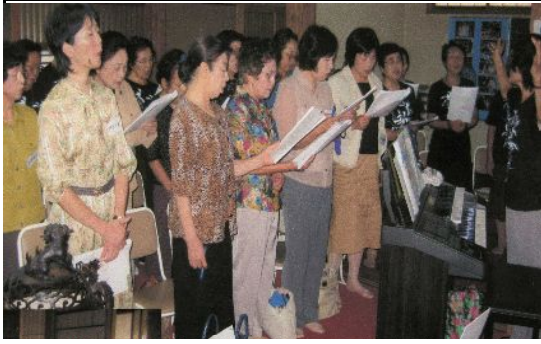
合同コーラスの集い

♪ きれいな
ハーモニーを
本堂に!!

(毎月第二金曜日十時例会)

去る九月十六日に西蓮寺仏婦(藤岡市)のみなさまをお迎えして、総勢四十五名、瀬古先生のピアノに合わせて楽しく歌いました。

初めにおつとめをして、歌がはじまりました。いつものように、発声練習をして仏教讃歌の「真宗宗歌」「旅ゆく しんらん」を丁寧に教えていただき、続いて「涙(なだ)そう」四部輪唱で「こだま」を歌いました。先生の指揮で、心も身体ものびやかになり、みんなで明るくうきうきと歌いました。阿弥陀様の前だからでしょうか、ふしぎと気持ちよく美しい声が出るのです。



西蓮寺仏婦の皆様も瀬古先生の優しい指導に触れ、とても喜んでくださいました。庫裡で、かわいた喉を潤し、しばしの歓談その後「レストラン葵」へ移動して、昼食をとり、和やかな交流のひとつときをもちました。食後、箸袋で折り紙、箸枕を作ったり、弘教寺の「エコクラブ」グループの活動にも興

味をもたれて、是非教えてほしいと。

こうしたお寺同士の交流はうれしいことである。今回の機会づくりによりいろいろとお気づかいいただきました。住職様、坊守様に感謝しております。後日、西蓮寺の坊守様からご丁寧なお礼状をいただきました。瀬古先生のご指導ぶりをもとても喜んでくださり、弘教寺との交流をますます発展させたいとのこと、私達も喜んでおります。私達コーラス部員は、現在十五名で加えて今回は、九名の仏婦会員が特別参加して下さいました。

皆様もご一緒に歌いませんか、お待ちしております。

秋の弘教寺合同研修旅行

仏壮・仏婦合同研修旅行は秋晴れに恵まれた毎回のことですが、各人が本堂のご本尊に、「ナムアマミダブツ」とまぎれご挨拶し、「おはようございます!」と元気な声をかけ合い、旅がはじまりました。

参加者四十名で出発、長年お世話になつていけるガイドさんの案内で、和気あいあいとした中で、時間が経つのも忘れ気がつけば最初の研修地、高田の専修寺到着です。親鸞聖人が七年前この地に念仏修行と布教に励まれたところであり、広い境内には驚きました。

本堂でお経を唱えると、凜とした爽やかな気持ちになりました。次の研修地、笠間の稲田御坊、聖人ご一家



が二十年間過ごされ浄土真宗の根本聖典「教行信証」をまとめられた所だと伺いました。

宿坊で昼食をとり、最後の研修地、「歎異抄」を書かれたといわれる、河和田の唯円坊の寺、報仏寺を廻り研修は有意義なうちに終了いたしました。

親鸞聖人のルーツに触れ、そのご苦労の中で示されたみ教えに私達の歩むべき道を教えていただき、私達に「お念仏」の継承に努めるべきことを、気づかせていただきました。ホテルでは大露天風呂「与市の湯」につかり、カラフルな衣装で踊る「ハワイアンショウ」に魅了させられ、宴会では自慢の歌と踊りが披露されて親睦を深めました。

◆仏壮ゴルフ・コンペ(第二回)◆

九月十五日、上武ゴルフ場で十七名の参加一に練習、二に練習で挑みましたが、珍プレーも多く、貝塚君雄さんがグロス、八十で第一回に続いて優勝した。連覇おめでとう!

◆群馬組「群真会コンペ」◆

十月六日、下秋間カントリーで行われ、弘教寺からは住職を含め五名が参加、当寺の佐藤吉一さんが初優勝した。



報恩講のご案内

12月3日(土)

13.30 遠夜法要
14.00 ご法話(一席)
14.30 記念コンサート
16.00 小豆粥ご接待

12月4日(日)

11.30 お齋(昼食)
12.30 ご法話(二席)
14.00 満座法要
14.30 湯茶ご接待



昨年七月「チェロとギターのコンサート」で大変ご好評を戴いた、皆様お馴染みの瀬越憲先生が、ユディット・ベントウ・カネコ女史と「オルフェウス・デュオ」を結成。再び本格的チェロ・デュオの演奏をお届けします。ユディット女史は、ハンガリー出身、音楽と共に育った天才的チェリストです。モーツァルトの他、瀬越先生の曲やロドリゲス、マシニー、山田耕筰などの、幅広い曲目がご用意されています。より多くの皆様が法要に集い、美しいチェロの調べをお楽しみください。終了後、坂井さんの似顔絵描きや、小豆粥の接待もあります。



の接待もあ
ります。

◆報恩講公開記念コンサート◆

「オルフェウス・デュオ」来寺

◆人物紹介◆ 「この人」

坂井 満さん 五十八歳

弘教寺の門信徒で、ご本人は山梨県で生まれ、生後三ヶ月で伊勢崎市境内に移ってこられて少年時代と、青年時代を境町で過ごし、のちに旧新田町に新居を構えてすでに三十年、今日に至っています。

「レース編みの下絵デザイン」のお仕事をされる傍ら、日本水彩画会に入会、連続九回も入選され、現在は無鑑査(審査なし)で出展出来る資格)で同会に出品を続けています。平成十四年に『時代の影』(写真の後ろの絵)が入賞し、高い評価を得ました。

(出展一千点▽入選四百点▽入賞九点)

現在、旧新田町木崎、太田市葦川町・竜舞町、大泉町の公民館等で教室を持つて、たくさん生徒さんをご指導され、大変お忙しい日々を送られています。

今回特別にお願いして十二月三日の報恩講記念コンサート後に、抽選で似顔絵を無料で描いていただけることになりました。

当日を
お楽しみに!!



【これからの行事予定】(平成17年12月~18年3月)

12月	3日	壮年会・婦人会 合同報恩講	記念コンサート 瀬越先生・ユディット女史
	4日	報恩講法要	ご法話(二席) 満座法要
	16日	壮年会例会	忘年会
1月	1日	元旦会	
	19日	婦人会例会	新年会
2月	13日	婦人会ビハーラ	上大類若宮苑
	20日	婦人会例会	折り紙教室
	26日	壮年会例会	正信偈の勉強会
3月	27日	婦人会例会	

◆編集後記◆

記事で紹介されてますが「親鸞聖人のふるさと」北関東旧蹟の旅でお念仏のみ教えをご聴聞させていただきました。「つつじ寺だより」も皆様のご協力をいただき、ソフトの学習をしつつ編集に努めております。皆様のご意見を力にし一歩一歩と育てたいと願っております。(M・H)

